

人生  
つれづれノンフィクション作家 おきふじ 沖藤 典子

前回、ネパール・ポカラ市の「さくら寮」10周年記念式典を訪れた際のことを書きましたが、今回はその後起こった悲劇?と、思わぬ縁を。

初めてネパールに行った私、チャンスとばかりに、ヒマラヤ山系見物へ。標高3880mまでヘリコプターで飛んで、そこに立つホテルに2泊3日滞在。多くの友人が心配した通り高山病にかかり、酸素ボンベ4本(4時間分)にしがみつきました。事前にあの三浦雄一郎先生のとこで低酸素体験をしていたのですが、現実には甘くないのです。でもすばらしいヒマラヤの銀嶺を堪能して、大満足。ただ、エベレストはこ機嫌悪くて、雲にお隠れでしたが。



日程を無事終えて羽田空港に帰り、バスで自宅まで5分ほどの停留所に着きました。バスに乗る前、タクシーにしようかと一瞬迷ったのですが、1万円もったいないなど…。

このケチ根性が、悪魔の囁き。バスのトランクル



撮影 中川 明紀

## 骨折と思わぬ「縁

ームから出てきたバッグを、肩にかけようとした瞬間、風にあおられて、後ろにひっくり返ってしまったのです!!

「痛い、痛い、助けてえ」。駆け回り、哀れな叫び声。誰かが救急車を呼んでくれて、病院へ。第二腰椎の圧迫骨折、即入院です。気は若くてもトシはトシ、身体は正直に疲れていました。老後の大敵は、骨折だと知っていたのに。



病院で、思わぬ出会いがありました。リハビリ科の医師、池達央先生という方です。先生は大学の法学部を卒業後、国際協力機構(JICA)に就職し、外務省の書記官として日本大使館に出向してネパール援助を担当。その後医学部に入り、現職。「ネパール帰りが荷物ごと運ばれてきた」と聞いて、会いに来てくれたのです。

いろいろお話ししているうちに、もっと驚くことがありました。

先生は、父上の転勤で1975年から2年ほど札幌の白石区もみじ台に住み、

もみじ台中学校に通ったとか。私も1975年から6年間、夫の転勤で下野幌に住み、次女はもみじ台中学校に。2年間くらいは、ご近所でした。道ですれ違っていたかもしれないね。

救急車で運ばれた病院に、ネパールと札幌双方にご縁のある方がいらしたとは。

若い頃私は、「自分の能力よりも少し上に、目標を置きなさい」と、アドバイスを受けていました。でもヒマラヤは大幅な能力超え。無理も無理。だから心を奮い立たせて、友人にこう宣言したのです。「命みじかし、無理せよ、ローバー」。入院以来、大反省。宗旨変えました。「命みじかし、無理すな、ローバー」。「命みじかし、転ぶな、ローバー」。「ケチすな、ローバー」。

でも、今回の縁は「無理をしたおかげ」。「骨折り損」だけではなかった。こんな不思議にめぐりあえたのだから、「無理もケチも」悪くないわね。せつかくの反省もすぐ忘れる私。今度はどこで何を「無理」しようか、痛い腰をさすりつつ思案しています。